

議事録（要旨）

会議名称	第3回 葛飾区リサイクル清掃審議会
開催日時	令和元年11月5日（火） 午後2時00分から午後4時10分まで
開催場所	かつしかエコライフプラザ 2階 研修室
出席者	（審議委員9名） 崎田会長、朝倉会長職務代理者、庄司委員、杉野委員、谷茂岡委員、大沢委員、佐々木委員、谷本委員、大山委員
欠席者	秋山委員
会議内容	1.配付資料の確認 2.第2回の振返り （1）議事録確認 （2）資料説明 3.開会 4.審議 （1）資源類の分別推進について （2）今後のスケジュールについて （3）その他 5.閉会
会議資料	資料1 「傍聴されるみなさまへ」 資料2 第2回審議会議事録要旨 資料3 第3回審議会用資料 資料4 第3回審議会補足資料（荒川区の集団回収について） 資料5 第4回開催通知

発言者	審議内容
事務局	<p><u>1 配付資料の確認</u></p> <p>本日の資料は、前回（第2回）の審議会の議事録要旨、荒川区の集団回収についての資料、傍聴されるみなさまへという案内、それと本日の次第になります。不足していたら教えてください。</p> <p>本日の議題は「資源類の分別推進について」ですが、その審議に入る前に第2回の振り返りをさせていただこうと思っております。お手元に第2回の資料をお持ちでない方には予備をお渡しします。</p>
事務局	<p><u>2 第2回の振り返り</u></p> <p>前回、第2回審議会の議事録の確認をさせていただきます。こちらは区のホームページに掲載する予定ですので、修正点等ありましたら11月8日までにリサイクル清掃課担当までご連絡いただければと思います。</p> <p>また前回、ご出席できなかった委員さんもいらっしゃいましたので、ここで改めて内容の振り返りを簡単にさせていただきます。</p> <p>前回は食品ロスの削減が主な議題でした。前回の資料の3ページ目、表1-1に葛飾区が第三次一般廃棄物処理基本計画に掲げている施策が記載されています。「食べ切り使い切りコンテスト」「普及啓発」「フードドライブ事業」という3つです。また計画に掲げているものの他にも「かつしか食べきり協力店事業」「3010運動のPR」を実施しております。これらに対して前回皆様からいただいたご意見としましては「来年度実施予定の食べ切り使い切りコンテストについて、お子様を対象としたコンテストも実施したらどうか」というものがあり、今後検討させていただきたいと思っております。</p> <p>審議の中では、家庭系の食品ロスの削減だけを検討するのではなく、事業所も巻き込んで社会全体で食品ロスを無くしていこうという共通認識を持つことが出来ました。また今後の具体策を考えるにあたっては「かつしかルール」の周知が第一ではないかというご意見をいただきました。事業系ごみも実は家庭系ごみが姿を変えたものであるから、事業系と家庭系の両方の視点を含んだ新たな「かつしかルール」を作ったら日本全国のお手本になるのではないかと意見もいただきました。以上が主なご意見でした。そのほか何かあれば本日もご意見いただければと思います。</p> <p>前回の資料には第2回審議会資料(1)として第1回の補足資料というものがあります。こちらは第1回の審議会で皆様からいただいたご質問についての資料です。</p> <p>まず1点目、第3次葛飾区一般廃棄物処理基本計画に掲げる施策の未実施項目について、なぜ実施できていないのかを明らかにした方が良いのではないかと</p>

	<p>というご意見をいただきましたので、こういった事情で出来なかったのかをまとめたものになります。3 ページ目は資源回収について、葛飾区で実施している集団回収の状況を掲載しております。4 ページ目には荒川区の事例（参考）が載っています。こちらは I 委員から荒川区の集団回収についてご質問いただいておりますので記載したものです。こちらの内容につきましては本日の審議の資料を事務局から説明させていただく際に改めてご説明いたします。以上が第 2 回の振り返りになります。</p> <p><u>3 開会</u></p>
A 委員	<p>それではスタートしたいと思います。</p> <p>前回お休みされた方を中心に食品ロス削減に関してまだ追加しておきたい事があれば、お話を伺えればと思います。</p> <p>食品ロスは家庭系と事業系と日本全体で同じくらい出ていて両方とも大きな課題なのだけれど、まずは家庭系を中心に、家庭への呼び掛けや普及啓発といった基本を大事にしながらプラスアルファを考えていくという視点で前は意見交換させていただいたと思っております。</p> <p>ご意見ありましたらお願いします。</p>
B 委員	<p>前は所用で欠席してしまい申し訳ありませんでした。</p> <p>まず食品ロスの前に、第 1 回の補足資料のほうで、施策の未実施項目に関して資料をまとめていただきました。これはたぶん第 1 回で私が申し上げたコメントに対するものだろうと拝読しました。</p> <p>なかなか難しいと思うんですけども、例えば一番上の「堆肥の地域活用の仕組み作り」に関して「参加者が少なく費用対効果も含めて有効な具体策が必要と思われる」とありますが、その有効な具体策とはいったいどのような方法なのか。おそらく最初に計画を検討された際、その時はその時点で効果の高いものをやろうと考えて提案されているかと思います。それで参加者が少ないということであれば、有効な具体策を考えるうえで、見えている課題があれば、次につなげる方向性を何か明らかに出来ないかなと思う次第です。もし必要であれば私も含めて専門家の委員にご相談いただければ、他地域での事例等を紹介することは可能かと思います。今すぐにまとめて欲しいという事ではなく、今回の計画策定に向けて、そういう方向に進めていただければ大変ありがたいと思いました。食品ロスについてはざっと見て、またあとでコメントさせてください。よろしくお願いします。</p>
A 委員	<p>ありがとうございます。前々回お話いただいたあたりですね。今後も検討にあたって、きちんとした評価と新たな方向性を考えながらやっていくのはすごく</p>

G委員	<p>大事だと思います。</p> <p>ざっと読ませていただきましたが、だいたいこのような意見で良いのかなと感じました。良い施策を作ってもそれをどう周知するかどう教育するかということが今後重要になってくるかと思います。</p> <p>食べ残しの持ち帰りというのは個人でできる食品ロス削減の効果的な方法だとは思いますが、容器をお店から貰うと、今日の審議の議題であるプラスチックごみの問題になるかと思うので、マイボトル運動にならって、マイタッパー運動というものを葛飾区から始めていければと思った次第です。以上です。</p>
A委員	<p>ありがとうございます。持ち帰りは良いけれど、そこでまたプラスチック容器包装が増えるという、永遠のテーマですね。最近それを配慮して事業者の皆様もバイオマスプラスチックの容器を用意したり、紙で作ったボックスを用意したり、少しずつ色んな工夫は出てきているかなと思います。まずは自分が持っていくのが一番良いわけですけどね。大事なご指摘ありがとうございます。それでは私の方から3つほど情報提供させていただきます。</p> <p>10月は食品ロス削減月間ということが食品ロス削減法で決まりましたので、各地で色々な食品ロス削減に関する取り組みが行われました。それで毎年10月に3R推進全国大会というのがあるんですけど、事業者、自治体、NPOが集まって全国各地で毎年大きな大会を開くんですけど、今回たまたまそこでのシンポジウムも食品ロス削減がテーマでした。</p> <p>私がコーディネートを務めさせていただいたのですが、色々なご意見の中で私が非常に強く感じたのが、まずデータをちゃんと採るということでした。現状がどうか、どのくらい生ごみを出しているのかという現状もそうですが、どういう努力をしたらどういうふうになったのか、その効果とあわせてできるだけデータを提示するということが多くの方にこの課題を伝える時に大事なのではないかと強く感じました。</p> <p>2つ目は、命をいただくことへの感謝を持った上で、しっかりと食べ切っていくという、その基本を次の世代にちゃんと伝えることが重要であるということです。</p> <p>3つ目は、食品ロス削減をやるにしても、それを区民と事業者と自治体と連携が必要だということです。でも連携が必要という精神論だけではなく、そこに面白い仕組みとか明確なシステムを作っていくことが必要です。</p> <p>ひとつ面白い話として、「新潟の吉本興業」と自称されているお笑い芸人さんとか宴会を盛り上げる人たちの事務所があるんですね。そこを経営している方が環境問題に興味を強く持っておられて、これからの宴会は3010運動ですということで、宴会の最初の30分とあとの10分は美味しく食べましょうと、</p>

	<p>その最初の 30 分の時に芸人さんたちの芸をやるという提案をしています。色々な方たちが自分たちの暮らしや仕事の中で色々な提案をして、「新潟を変えるかもしれない 17 の実践」ということで、SDGs の 17 項目に合わせて、「笑いと貧困：フードバンクにいがた大使を務めます」とか、「笑いと食：地産地消を広げます」とか、そういう動きがあって、大変面白いなと思いました。</p> <p>あと 10 月 30 日に、徳島県徳島市の連携で全国食品ロス削減大会の第 3 回が開かれました。そのシンポジウムのテーマが「ICT を活用した食品ロス削減」でした。例えば NTT ドコモの方がアプリを使って、スーパーで消費期限や賞味期限ぎりぎりのものを買おうと、ぎりぎりのほうがポイントが高く付くような仕組みです。それを地域の自治体と大規模なスーパーが連携しながら消費者に向けて呼びかけると、今までの地域密着型のポイント制度がもう少し広がるんじゃないかというような提案をされていたので、時代がちょっとずつ変わってきた、回ってきたかな、色んな方が知恵を出し始めているのかなという感じもしました。</p>
J 委員	<p>我々は昔、生活が厳しい時代があって、その時は食品ロスというようなものは残りませんでした。物を捨てない、余計な物を買わない、物も高かったせいで生活も苦しかったということもありますけど、やっぱり今は物が豊富だし生活が豊かで、原因はそれが一番大きいように思います。</p> <p>例えば空き缶を 1 個拾うと 5 円くれるとなれば、子どもが拾ってきて、ゴミにならないで資源に返ってくるような気がします。</p> <p>それから、無駄が多いというのは、やっぱり余計な物を作らないのが一番大事だと思うんです。販売量がどれだけあるかを測れば良いと思います。ただ安くするだけでは、安いから余計な物を買ってきてまた物を捨てるという悪循環になる。もう少し物の価値を高めて「これはもったいない」となれば変わってくるような気がします。業者だけではなく家庭も、余計を作らないように、もっと計算してくれば良いと思います。</p>
A 委員	<p>ありがとうございます。無駄が多い飽食の時代になって、そういう豊かさから悪循環が生まれてくるというのは本当におっしゃる通りです。感謝しながら無駄を出さないでいくのが当たり前に戻っていくことがすごく大事なんだろうと思います。</p> <p>今は大規模なスーパーなどで、ある程度の規格に入らないと流通させず、ちょっと曲がったキュウリなどが捨てられているというのが大きな課題になっています。そういう商品を出来るだけ作らない、あるいは作ったらそれをちゃんと美味しくいただく方法を考えるなど、流通の皆さんがやれること、外食の皆さんがやれること、消費者がやれることはすごく多いと思います。まずは消費者が率先して出来ること、あるいはお店とか外食で連携して出来ること、そう</p>

	<p>いう仕組みを作っていければ良いなと感じます。</p> <p><u>4 審議</u></p>
A委員	<p>本日の議題は「資源の回収率をもっと上げていく」という話ですので、また皆さんからたくさんのご意見をいただければありがたいと思います。</p> <p>まず資料のご説明を事務局にお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。</p>
事務局	<p>それでは事務局から本日の資料について説明をさせていただきます。お手元に第3回審議会用資料をご用意ください。</p> <p>—資源類の分別推進について、世界の情勢、国や都の動向、23区の施策の実施状況と比較、葛飾区の施策の実施状況、葛飾区の現状、課題に向けての試算など、資料の内容を事務局が説明—</p>
A委員	<p>ありがとうございます。葛飾区はごみの排出量が23区の中では少ない方だけけれど、資源化率は残念ながら真ん中からちょっと低いくらいで、まだまだ資源化できるのではないかというのが一番の課題だとご説明がありました。</p> <p>何かご意見があれば是非、伺えればと思います。</p>
E委員	<p>私ども産業界としましては、ごみの排出に対してはかなりシビアになっております。取引先がISO14000を取得している場合は、我々の排出まで調べに来られるということで、私どもの社内では資源化できるもの、できないものの分別をゴミ箱を4つも5つも置いて社員全員にさせています。今、産業廃棄物として出す場合に分別して出さないと料金が倍くらいになってしまいます。</p> <p>また、スーパーに設置されている容器の回収箱を利用している方は多いかと思いますが、全く利用していない方も多数見受けられます。もっと啓発し、ごみの分別を小学生の頃から教育し、知ってもらうことが大事ではないかなと思います。</p> <p>私どもの会社では、昔は何でもゴミ箱に入れており、下手すれば工具まで捨ててしまうというような状態でしたけれども、今はだいぶ教育のおかげで徹底し分別する状況になっております。以上です。</p>
A委員	<p>ありがとうございます。今、教育のおかげでというお話がありましたが、社員教育という意味で色々と研修があったと思うんですが、一番効果的だったのは何でしょうか。</p>
E委員	<p>やはりISOを取得する場合、まず社員1人ひとりのごみの分別や省エネが義</p>

	<p>務付けられますので、ISO 取得前から毎月研修会を行うことで社員全体に及んできているという状況です。</p>
C委員	<p>今お話の中で産業廃棄物の話が出ましたが、一般廃棄物としての燃えるごみ燃えないごみの分別のほかに、産業廃棄物の分別というのも今のお話の中には含まれているのでしょうか。</p>
E委員	<p>はい。</p>
C委員	<p>すると、きちんと分別するとビン・缶・プラスチックは全部産業廃棄物になりますから、それがずいぶん増えていると理解してよろしいですか。</p>
E委員	<p>そうですね。産業廃棄物は原則として、区の収集には出せない、もしくは有料でお願いするという事になっていますし、また産業廃棄物の場合は有害物質も含まれますので、そういった業者に出さないと法律的にも罰せられるということで、きちんとマニフェストをもらって、どういう処理をしたかまで把握している現状です。こういった対策においては世界でもトップではないかと思えます。かなり厳しく対策をしています。</p>
A委員	<p>ありがとうございます。産業界の皆さんの自己管理、分別の徹底は、最近本当に素晴らしいものがあると思えますので、そういうことが社会全体にうまく広がっていくように、皆で考えていければと思います。</p>
E委員	<p>例としては、製品を納入する時に、通い箱制度で、それに入れていかないと納品できない、段ボールでは駄目、専用の容器に入れて、それも使い回して、行って・来いで、納品時には空き箱をその分だけ支給してもらって帰って来るといような循環をしていますので、かなり段ボールの使用は減っております。</p>
A委員	<p>リサイクルの前の、リユースのところですね。そういうところから徹底していくと社会全体が非常にすっきりとし、資源を徹底的に活用していくことになりますね。ありがとうございます。ちなみに職種としては、こういったものを納品されておられるのでしょうか。</p>
E委員	<p>ゴム製品、特に防振ゴムですとか、送電線関係の製品を納めております。東京電力は通い箱制度です。あと特に自動車産業はほぼ徹底しているような状況になっております。</p>
A委員	<p>ありがとうございます。以前、百貨店のバックヤード見学をした時に、通い箱</p>

E委員	<p>で納入してくる店舗と、段ボールで納入してくる店舗と両方あってですね、有名なブランド店はブランドの名前が大きく書いてある通い箱を用意しているようです。そういう取組みはかなり進みつつあるのかなと思いますけれど、もっともっと進んで欲しいですね。</p> <p>ええ。まだまだ不十分なところがあります。</p>
A委員	<p>産業界、とくに ISO をしっかり取るような業種ではかなり分別やリユースが徹底されているというお話でした。ありがとうございました。</p> <p>さて私たちが考える家庭や地域のシステムになりますと、まずは分別をしっかりしてもらうのが一番大事で、それ以外に何か新しくやる必要があるのかどうかを次の段階で考えるという、二つの事があると思います。今あるシステムが徹底されるだけでも目標は達成できるんだという試算が資料にもありました。あと 50 分くらい意見交換がありますので、最初の 20~30 分は今ある仕組みや今あるものの中で分別を徹底するにはどうしたら良いかというお話をしたいと思います。もちろん今あるシステムではない新しいものを提案していただいても構いません。</p>
H委員	<p>私は J 委員の話が大きな基礎になると思いました。もったいないという気持ちは本当に何物にも代えがたい原点であろうと思います。そしてその姿や心が薄れてきている現状がネックだろうと思います。</p> <p>資料の 14 ページにあります。葛飾区には資源とごみの収集カレンダーという見事なものがあり、分別の仕方が学べます。日本人は勤勉ですので学んで理解をしていけば、そこから実践につながっていくと思います。</p> <p>それから 15 ページに記載のある「紙類回収の新たな仕組みについて」について、検討していきたいと考えているとありますが、その中身を教えてくださいたいと思います。</p> <p>それから 16 ページに記載のある「普及啓発用 DVD」について貸出数が 10 件と大変少ないんですけど、見事な DVD です。ぜひ学校でも業界でも活用いただければ良いかと思います。</p> <p>それからごみ減量キャンペーンです。私も昨年までやらせていただいたことがありますけれど、これはいただき物があるからそれにつられて来る方がたくさんいるのですが、それはそれで啓発になりますので良いと思います。しかし、アンケートの分析と活用はどんなものか、私たち委員も知っておくべきと思います。</p>
A委員	<p>ありがとうございます。表 4 と表 5 にある従来の施策を検証するのが大事というご意見ご質問と理解します。ありがとうございます。</p>

事務局	<p>質問に関して事務局からコメントいただければと思うんですが、まず資源とごみの収集カレンダーの改訂という部分ですが、いかに地域の方に理解していただくか、その普及啓発について教えていただければと思います。</p> <p>こちらのカレンダーにつきましてはページ数を増やししながら、分別の方法や拠点回収など、ごみの回収と収集に関する情報を一括で載せる形で掲載しております。地域ごとに収集の曜日が分かる形でお知らせをしているものです。改訂につきましてはページ数を増やししながら内容を充実させているところでございます。</p>
A委員	<p>ページ数を増やししながら内容を充実というお話がありましたが、内容が充実し過ぎていてですね、例えば新たに引っ越して来た方に対してまずは最低限の内容を伝えるような場合、どのような啓発をしているのでしょうか。</p>
事務局	<p>転入をされた方につきましては、カレンダーではなく、こちらの「資源とごみの正しい分け方・出し方」という冊子をお配りする形になります。全地域が分かるような一覧表とあわせてご覧いただきながら、ごみの収集回収について周知を図っています。</p>
A委員	<p>ありがとうございます。こういう資料は非常をしっかりと作っていただいでいて、転入された方にもお話はされています。しかしそれでも可燃ごみの中にはまだ 20%くらい資源になるものが含まれているという現状をどう解決するかという話になりますね。</p> <p>それとH委員の質問の 2 つ目、15 ページの紙類の新たな回収方法の検討についてお願いします。</p>
事務局	<p>こちらはまだ検討中という形になります。現在考えておりますのが資源回収の中でも抜き取りをされやすい新聞とアルミ缶に重点を置きまして、新しい仕組みを考えております。例えば松戸市ですと家の前に置いておくという形で資源回収を行う軒下回収があります。そういったケースも参考にしながら、どのようにやっていくと抜き取り対策をしつつ回収率を上げていくことが出来るかを、今後できればモデル事業で検証しながら進めていきたいと考えているところでございます。</p>
A委員	<p>今はまだ検討中という事ですが、何かご意見があればありがたいと思います。1軒1軒、車でぱっと止まってぱっと入れていくという作業は出来なくはないのかなと思います。</p> <p>次の質問、ごみ減量キャンペーンのアンケートのお話と、普及啓発 DVD につ</p>

事務局	<p>いてですね。</p> <p>キャンペーンでのアンケートにつきましては、目安というのも変なのですが、例えば「かつしかルール」はどれくらい浸透しているのかとか、そういうところを測る基準として使わせていただいているのが主なところですね。あとは現在策定中の第四次計画にも、どういったところが反映できるか参考に使わせていただきたいと思いますと考えております。</p> <p>DVD に関しては学校などにお知らせをしていますが、なかなか貸し出しという形では現れてきていないところですね。こちらは YouTube でも視聴が出来るので、どれくらいのアクセス数があるのか確認はしておきたいと思っております。</p>
A 委員	<p>ごみ減量キャンペーンのアンケートの集計結果はこの場で伺えますかね。</p> <p>J 委員の手が挙がりましたのでどうぞ。</p>
J 委員	<p>ごみ減量キャンペーンはかなり進んでいるけれど、まだワンルームの大学生などにマナーが浸透していないケースもあります。カレンダーも貰っているけれど、なかなか浸透しません。大学にも何かの機会を考えて貰えればありがたいと思っております。</p> <p>それとプラスチックですが、委託業者が集めるだけでなく、子ども会で集めるのもっと効果が出るかと思っております。子どもの協力があると親も協力してくれるような気がします。なかなか休みが少ないので協力してくれる人は少ないですけど、やれば子ども会の発展にもなるのかなと思っております。</p>
A 委員	<p>集団回収だけではなく、子ども会も参加する形にして、報奨金も地域みんなで活用できるような形にするのが理想ということですね。ありがとうございます。</p>
F 委員	<p>ごみ減量キャンペーンは区のリサイクル推進で力を入れておきまして、11月3日も大々的にやりました。アンケートは 200 枚くらいずつ、以前は 4~5 か所だったのが今は 20 か所近くでキャンペーンを実施しています。物を貰いたいから来るという面もありますが、それによって意識が広がれば良いです。アンケートは大学生に配って貰っているのですが、大学生はあまり分かっていないように感じます。ただ、一生懸命やってくれているのでだいぶ意識は持ってきているとは思っています。アンケートを活用する時にはきちっと趣旨を説明しながら活用していただければ良いと思っております。キャンペーンに関しては、区としてよくやっていますし、ほかの区に比べたら非常に前向きになっていると思っております。</p> <p>資源の分別は難しく、とくに雑紙が非常に多いです。資源だと分かっているけ</p>

A委員	<p>れども、どうやって分けようか、どうやって出そうか、というところに問題がまだまだあります。集団回収で雑紙の回収もやってくればありがたいと思います。いずれにしても一人ひとりが気を付けなければいけません。</p> <p>それから、やはりごみの発生抑制が重要です。最初からごみの処理じゃなくて、ごみを出さないようにしていくのが第一条件です。それを考慮して分別をしていかなきゃいけないと思います。</p> <p>それからプラスチックですが、できれば再利用できるプラスチックの規格統一が少しでも業界で出来るようになればいいなと思っております。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。大事な3点をお話いただきました。</p> <p>もう一度確認をしますと、ごみ減量キャンペーンは熱心にやって下さっていて大変良いことであることが1点目。大学生に参加していただくのは意識を高める為に大変良いことで、J委員からワンルームに住む大学生がごみの分別をうまくしていないという話もありましたけど、大学生や若い方に一緒に手伝ってもらうのは作戦としてとても良いので、もう少し意識的に仕掛けていくのも大事だと思います。</p> <p>2点目は雑紙の回収がまだまだ出来ていないので、集団回収の品目に入れたらどうかというお話。あとで事務局からコメントいただければと思います。</p> <p>そしてそういう部分も踏まえて発生抑制がやはり大事だという点。</p> <p>最後におっしゃったプラスチックに関しての容器の統一などというのは、事業者さんに要望するという意味ですかね。ありがとうございます。</p> <p>今のお話に関して事務局からコメントをいただきたいと思います。</p>
A委員	<p>いつもキャンペーンにご協力いただきましてありがとうございます。</p> <p>お手伝いをしていただいている大学生は、授業の一環として来ていただいている部分もございますので、どういった趣旨でキャンペーンをやっているのかをちゃんと説明しながら取り組んでいただけるように今後していきたいと思えます。</p> <p>昨年・今年と区内17か所でキャンペーンを実施させていただいていますが、今年は台風が来た影響で1か所お休みになりまして、16か所になっています。雑紙の集団回収につきましては、地域によっては雑紙も集めていただいているところがあると聞いております。今後、集団回収の仕組みの見直しを進めながら側面的な支援が出来るよう考えていきたいです。</p>
事務局	<p>すみません、今のお話で、雑紙の回収をしている所としていない所と両方あるということですが、ならば全部ですれば良いんじゃないかと思うのですが。</p> <p>集団回収の補助を出す仕組みとして、例えば空き缶と雑紙とを一緒にしてくれ</p>

	<p>るとプラス幾らになります、というような仕組みも考えているところがございます。集団回収は回収したものが売れるかどうかという、市場価格が関係してくるところもございまして、区の補助金だけでは賄いきれない部分もございまして。そういったところをもっと考えていきたいと思っております。</p>
A 委員	<p>いま区の補助金だけではというお話がありましたけれど、全体の最適化の中でしっかりと考えていただければと思います。雑紙は可燃ごみの中に混ざっている資源化できる物の中では非常に多いので、徹底していただければと思います。ありがとうございます。</p>
F 委員	<p>無料でも良いと思います。そういう回収の場があることが大事です。雑紙は雑紙として集めて良いとなればいいのではないかと思います。増えるのは手間だけです。</p>
事務局	<p>そういった周知の仕方についても検討させていただければと思います。</p>
A 委員	<p>若い方にキャンペーンを実施する側に参加してもらうのは意欲にもつながると思いますので、意識的にそういう作戦をやっていただくのも良いと思います。ご検討いただければと思います。 では皆さんからもう少しどうぞ。I 委員お願いします。</p>
I 委員	<p>現状自分の身の回りを考えますと、新聞とか段ボールは見かけるんですけど、雑紙を分別して出している方はまず見当たらないです。たぶん認知されていなくて、どうやって出したら良いのか分からない人が多いと思います。 私が知ったきっかけは、子どもが学校でごみの授業を受けて、雑紙を入れるための組み立て式ボックスを貰って来て、紙も資源になるんだと気が付いて、それから分けるようになりました。そういうボックスのようなもので、分別するきっかけを作ると良いかと思います。 あとペットボトルに関しては、スーパーに設置している回収機にペットボトルを入れるとポイントが付くシステムもあるので、子どもたちがけっこう喜んで溜めて持って行っています。大した額じゃないんですけど意識としてはそこに持って行ったほうが得、みたいのがあるので。そういう仕組みは民間の企業にも協力して貰って出来ると良いなと思います。ペットボトルに限らず缶でも何でも、そういう所に持って行けばごみじゃなくなるし、自分にも得になります。何か得がないと人って動かないのかなと思います。 子ども会については、子どもの人数自体が減っていて、大型マンションのような大人数が見込めるところの子どもはあまり入会しないので、月によっては大人がやっているという感じになってしまっています。そこで集団回収を増やし</p>

	<p>ましようという計画でいくと、そんなに多くは見込めないのかなと思います。資料の 14 ページに記載のある 23 区の資源化率について葛飾区が平均よりちょっと下だというグラフがありますが、上位と下位でシステムの違いは何だろうというのが気になります。2 位 3 位の杉並区や中野区に何か参考になるシステムがあるならば真似をして応用するのが良いかと思います。</p> <p>あと今の若い世代は紙をあまり読まず、スマホで YouTube や TikTok といった動画を観ますので、ごみ分別ルール徹底の動画を大学生や高校生に作って貰って賞金を出してコンテストをすれば、若い人の得意な分野で認知が広がって「かつしかルール」の発展にも良いのかなと思いました。以上です。</p>
A 委員	<p>ありがとうございます。大事なことを沢山お話いただきました。雑紙回収ボックスの提供は、すでにやっているんですね。</p>
事務局	<p>ボックスは以前に作ったもので、現在は回収袋になっています。キャンペーンでも、マイバッグとあわせて回収袋も配らせていただき、雑紙の分け方や出し方を付け加えながら配布をさせていただいております。</p>
A 委員	<p>私も袋を拝見したことがあるんですけど、ああいうのを貰うとききっかけになると思うので、色んな所で続けていただければなと思います。</p> <p>あと 23 区の資源化率の何が違うのかというお話についてはどうでしょう。</p>
事務局	<p>プラマークの回収をしている区が上位に入っているようです。下位は、プラスチック製の容器包装を可燃ごみで処理しているところになります。港区さんは「その他プラ」という、プラスチック類の全部を資源化しているので、非常に高い数値が出ていると考えております。</p>
A 委員	<p>容器包装プラスチックの回収だけではなく、製品プラスチックも一緒に集めるというモデル実験から、今はもう実際に進めているということですね。今 23 区でそれをやっているのは港区だけですか。そういう新しいチャレンジの仕方もあるということですね。ありがとうございます。</p> <p>あと I 委員が最後におっしゃったスマホ世代に向けて、大学生の方に発信ツールを作ってもらおうというのは、とても良い話だと思います。ありがとうございます。</p>
H 委員	<p>すみません。雑紙に関して申し上げておきたい事があります。「雑紙って何？」というのを、大人も子どもも知らないです。そこの知識をきちんと啓発することが大事です。学校の授業で子どもたちにルールを教えて、最後に「雑紙はごみですね？」とひっかけると、子どもたちは「うん」って言っちゃうんです。</p>

A 委員	<p>雑紙はごみではないと勉強したはずなのに、ひっかかります。雑紙は何であるかという理解をきちんとさせていこうと思っております。</p> <p>それから回収袋は、その袋も最終的には捨てるわけなので、ちょっと勿体ない、何か工夫が必要かなと思います。</p> <p>すでに仕組みは色々出来ているんだけど、何を分けたら良いかとか、基本的な情報が徹底して伝わっていない部分もまだまだあるというお話でした。大事なご指摘ありがとうございます。</p>
J 委員	<p>葉書や、贈り物の包装紙には個人名などがあるので、それを嫌がって燃えるごみに出してしまう人が多いです。シュレッダーなどで刻んで回収に出すことを役所や工場ではやっているけど、一般の家庭にはありません。刻める場所があればそこに持って行ってやると思いますが。自宅に届く役所からの書類もたくさんあるので、回収に出して良いのか、いけないのか分からず、たまげるほど溜まってしまうことがある。その辺りが安心できるようになると、出す人もちゃんと分けてくれるんじゃないかと思えます。</p>
A 委員	<p>シュレッダーしたものを袋に入れておけばリサイクルできる業者は増えているはずですが、大事なご指摘だと思います。ありがとうございます。</p>
J 委員	<p>知識がある人は別ですけど、あまり一般的な人に、そこまでまだ伝わっていないと思います。それもこれからの課題かもしれないですね。検討のほうをよろしくお願いします。</p>
A 委員	<p>はい。ありがとうございます。課題がだんだん絞れてきたかなと思います。今まである仕組みについてだけでなく、新たなご提案についても、そろそろお話しただいて構わないと思います。よろしくお願いします。</p>
C 委員	<p>ちょっと視点を変えて資料を見ても、ごみの全体量は減ってきていますよね。葛飾区の量でも 5~600 トン前後、ごくわずかですけど、でも着実に減ってきています。その中で資源化率はここ 7~8 年変わっていないです。それが何を意味するのか、けっこう大事な数値だと思います。</p> <p>事業系ごみと家庭系ごみとを分けて考えますと、ごみ全体が減っている中で、事業系ごみは若干増えています。ということは家庭系ごみの減り方がかなり多いということです。それでも資源化率が変わっていないというのは、もう頭打ちになっている。それがこれからは大きな課題だと思うんです。</p> <p>資源とごみの全体の減量もかなり進んで、区民の皆さんもやる気はある。そういう中でさらに資源化率を上げるというのは、頭打ちになっていて正直難し</p>

<p>A委員</p>	<p>い。それを打開するには今までと違う視点で考える必要がるのかなあと。今日のお話しの中で例えば大学生に紙ごみ雑ごみが多いなど特徴的なものがありました。そういう特徴的な部分に焦点を絞ってやるのが大事。資源の中では、雑紙がターゲットです。そこに絞って、なぜ資源化率が上がらないのかという点をもう少し考える必要があります。データの的にも例えばペットボトルの資源化量の場合、スーパーやコンビニで回収している分はかなりの量だけれど、こちらの資料の数値には含まれていないはず。その分も全部含めたら資源量は増えているかもしれません。そういったデータの取り方も少し広げていく必要があるのかなと思います。</p> <p>なぜ資源化率が上がらないのか。しっかり課題を踏まえた上で対策を考えた方が良くというお話で、具体的なポイントとしては雑紙ですね。それから学生に関してなど今日皆さんからご意見が出たあたりは非常に大事だとおっしゃっていただきました。それと、家庭系のごみは減っているけれど事業系のごみは若干増えているという指摘。そこをもう少し徹底するというのも大事だと思います。ご指摘ありがとうございます。</p>
<p>G委員</p>	<p>今ある枠組みの中でやるにはやはり周知教育が大事だろうというお話しが中心だったかと思います。</p> <p>カレンダーに関しては、確かに情報量が多いので、もっと大きなサイズで作れば見やすくなるんじゃないかなと思います。</p> <p>DVDに関しては、若い方に作っていただくというのも面白いですが、私はもっと若い世代が興味を持つビジュアルでいったほうが良いのかなと思うので、例えばキャプテン翼や、こち亀とか、葛飾区ゆかりの表現上の資源を導入しても良いのではないかなと思います。</p> <p>ペットボトルについては、私も小学生の頃にコーラのビンを拾ったりしていました。お店に持っていくと10円になりました。そういう仕組みが必要なのかなと思います。スーパーに回収機が置かれたとき、なぜこういう仕組みがもっと世の中に普及しないのかなと思いました。ペットボトルは再利用しづらく、結局裁断して繊維類の原料にすることになって、そうするとかなりコストが掛かり1企業だけでは賄いきれない部分があります。それを大きな企業団体とか行政がバックアップしながらやっていくのも必要かと思います。</p> <p>それと先程の、資源化率がほぼ変わらずごみは減っているというお話に関して、葛飾区の場合は人口がかなり増えているというのが重要かと思います。人口は増えているけどごみが減っていて、資源化率は維持できているというのは、かなり取組が進んでいるからこそでは、という考え方も出来るんじゃないかと思います。</p> <p>それから次の課題の新しい資源について、先程の事務局のお話にもありました</p>

	<p>が、燃やさないごみの資源化というのが大きなプラスになるのではないかと思います。</p>
A委員	<p>いくつかご指摘ありがとうございます。事務局の方に伺いたいのですが、従来のものだけではなく新しい視点はないか、そのあたりを最後にしっかりお話ししたいと思うんですけど、可燃ごみの中では雑紙の回収を徹底というのがありました。不燃ごみの中では、プラスチック、あと小型家電。まだ色々な物があると思いますが、区としてどう課題を認識しておられるか、お話しただければありがたいと思います。</p>
事務局	<p>燃やさないごみで集めている中に金属が含まれているものがございます。中間処理で抽出して資源化を図っているところです。収集から処理に行く途中の段階で選別をしている区も8区ございます。ご意見としていただければ、今後の計画に含めていくことが出来ると考えております。</p>
A委員	<p>金属類を資源化できればかなり資源化量も増えてくると思います。都市鉱山の流れからいっても、小型家電リサイクルの状況はどうでしょうか。</p>
事務局	<p>昨年度まではオリンピックのメダルを都市鉱山から作ろうということで小型家電の回収を行っていました。その後も継続し、現在葛飾区では小型家電9品目、携帯電話やポータブルビデオ、ゲーム機などを回収しております。その9品目に関してはリサイクル費用が多少入ってきます。逆に電子レンジなど粗大ごみに関しては、逆有償となっています。</p> <p>金属の回収、資源リサイクルは進んでいると現状では認識しています。</p> <p>それとパソコンの回収に関しまして、リサイクル料のかかる古いパソコンや自作パソコンも含めて無料で回収できる仕組みを、10月から事業者と協定を結んで始めております。</p>
A委員	<p>ありがとうございます。パソコンや小型家電は、なかなか資源化率が上がらないので、もっと回収率を上げていく必要がありますし、燃やさないごみからしっかりと資源化できるようになれば非常に大きな成果があります。コストが掛かるものと掛からないものとバランスよくやりながら、全体的に良い成果を出していくのが大事ですね。</p> <p>駆け足で色々資源化に関してお話ししておりますが、今まで資源化に向けて取り組んでいたものをより良くしていく話と、金属類をもう少ししっかりと資源化するお話でした。ほかに何かありますか。</p>
B委員	<p>最後にひとつだけ。資料の中に、区が最大の事業者だという話がありました。</p>

	<p>こういう審議会ですとどうしても回収の方にばかり目がいってしまうんですが、区が排出しているものはどうなのですか。会議の資料などのペーパーレス化など、いつまでにどのくらい図っていくのでしょうか。区のイベントで出されているペットボトル類、記念品など、プラスチック類はどれくらい出て、どのようにちゃんと利用されているのか、されていないのか。広報の為のパンフレットを作っても十分に活用されなかったり、クリアファイルにメッセージを入れて沢山作ったけれど配りきれず無駄になってしまったりという事例が実際にあるんだろうと思います。</p> <p>私の会社でも、ペーパーレス化に向けて書類等は電子化してメンバーで共有しています。あるいは広報イベントで配っているようなものも、なるべく値段で考えないで、古新聞とか廃プラを使って、アップサイクルで価値を付けたものをイベントで配るということをやっています。</p> <p>区が事業者として実際どのくらい出しているのかというところを、何か目標を立てられると良いと思います。</p>
事務局	<p>区役所として包括的に取り組んでいる状況をご説明します。地球温暖化対策実行計画に則り、光熱費や紙の使用量について定期的に国に計画書を提出し報告をしている状況でございます。</p> <p>紙を減らす具体的な取り組みとしましては、こういった会議ですとか、議会に出す資料などが大量に紙を使うんですけれども、内部会議につきましてはタブレットを使って基本電子化の方向で仕切ろうとしています。しかし、やっぱり紙を持って来てしまうケースもあります。そこは割り切りをしながら慣れていこうという状況にあります。議会につきましては、我々はタブレットを使って、なおかつ議員さんにはタブレットと紙と併用でということで、議員さんには期限は設けず慣れていただき紙を減らす取り組みをやってございます。ですが、役所の仕事が増えていく事と相まって、残念ながら紙の使用量は少し増えてしまっている現状でございます。引き続き光熱費あるいは紙の削減、地球温暖化対策の具体的なアクションプランということで取り組んで参ります。</p>
A委員	<p>課題はよく承知して下さっていて、努力するということですね。ありがとうございます。</p> <p>ペーパーレス化、脱プラスチック、使い捨て型プラスチック、それらに関してはこのところ大きな波が来ております。区の廃棄物処理計画には循環基本計画のイメージも含まれていると思いますので、区役所としてどういう方針を持つのか、発生抑制に対する方針を何か一言、計画の中に書いていただければ良いと思います。</p> <p>ここでひとつ情報提供をしておきます。レジ袋の話です。使い捨て型プラスチックを出来るだけ減らしていくという大きな流れ、そして海洋プラスチックの</p>

<p>A委員</p> <p>一同</p>	<p>問題への貢献ということで、いまレジ袋有料化議論をしています。レジ袋の有料化で全てを解決するというよりは、入り口としてまずはレジ袋を有料化して出来るだけ発生抑制するというものです。有料化に反対する業界はほとんどいません。ただし、バイオマスプラスチックとカリユース可能な袋とか環境価値があるものを同じように有料化して義務化というのは、趣旨が違うんじゃないかというご意見はあります。私の理解では、使い捨て型のレジ袋は有料化義務化され、環境価値のあるものは対象から外すけれども各事業者の判断で有料化となるようです。出来るところは4月1日から、準備が整わないところは7月1日あたりまでは猶予期間にするという話になっています。</p> <p><u>5 閉会</u></p> <p>本日は皆さんから色々なお話をいただきました。資源化率がどうして上がらないのかをもう少し見たほうが良いというご意見もありましたので、その辺は事務局に少し徹底して調べておいていただければと思います。</p> <p>その上で、皆さんからの絞ったご意見が出ています。カレンダーをもっと分かりやすくする話、ごみ減量キャンペーンをもっと若い人も巻き込んで取り組んでいく話、雑紙の回収をもう少し徹底していく話、あとは金属類をきちんと回収していく話など、かなり明確に出てきたと思います。これらを踏まえてまた次回に話をしていければと思いますが、今日の段階ではこれでよろしいでしょうか。</p> <p>具体的な議論で始めましたけれども、最終的には非常に大事なところまで意見として出していただいたものと思います。ありがとうございます。</p> <p>次回は1月20日(月)の午後を予定しています。今日の話をもっと整理していただくのと、有料化に関する議論です。また事前に資料など折り込んでいただきながら議論していければと思います。よろしくお願ひします。</p> <p>今日はありがとうございました。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
----------------------	---